

クリニカルパス通信

クリニカルパスとは？



「クリニカルパス」

1985 年に米国の Karen Zander によって開発され、1995 年頃より日本に導入されました。

日本クリニカルパス学会によると「患者状態と診療行為の目標、および評価・記録を含む標準診療計画であり、標準からの偏位を分析することで医療の質を改善する手法」と定義されています。

<ミニトリビア>

クリニカルパスの原型はクリティカルパスに由来しています。クリティカルパスというのは、多くの契約者が複雑に関わって 1 つの作業を行うコンピューター関係・建築関係などの産業界で、1950 年代に工程管理のツールとして開発されたと言われています。



パス委員会

パス通信班より

委員の新旧入れ替わりとなりました。新規パス・パス適用率のご報告が遅れてしまい、申し訳ありません。パス委員会では、今年度は「350 件・適用率：45%」を目標に掲げました。

さて、ここ数年で看護部を中心に新規採用者の増加が見られています。そのため、今年度は、当院でのクリニカルパスについてのご紹介やパス委員会の活動などを中心に、お伝えしていきたいと思います。

ご意見ご質問等々、お寄せいただけると幸いです。

(クリニカルパス委員会 パス通信班 織田真由美)



「地域連携パスについて…」その 1

・当院では、院内で使用中の通常のクリニカルパス以外に、「地域連携パス」を使用しています。整形外科・脳神経外科に関連する部署以外の方は馴染みがない言葉だと思います。そこで、数回に分けて、ご紹介していきます。

<地域連携パスってなあに？>

- ・急性期病院から回復期病院を経て早期に自宅に帰れるような診療計画を作成し、治療を受ける全ての医療機関で共有して用いるものです。
- ・診療にあたる複数の医療機関が、役割分担を含め、あらかじめ診療内容を患者に提示・説明することにより、患者が安心して医療を受けることができるようにするものです。
- ・回復期病院では、患者がどのような状態で転院してくるのかを把握できるため、改めて状態を観察することなく、転院早々からリハビリを開始できます。

当院で使用しているのは、

- * 大腿骨近位部骨折地域連携パス
- * 脳卒中地域連携パス

の 2 つです。

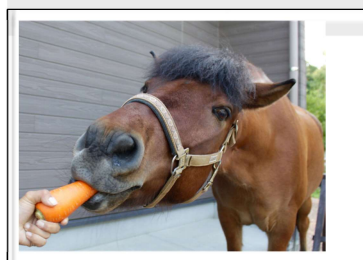




目指せ、
パス：
350件

現在運用中のパスは 274 個
(令和 2 年度)

外科・呼吸器外科	132
整形外科	70
看護部	17
形成外科	15
小児科	15
眼科	9
婦人科	6
泌尿器科	4
内科	2
脳神経外科	2
循環器内科	1
耳鼻咽喉科	1



令和 2 年度全体適用率
30.6%

新パス紹介(1～3月承認分)

- 骨内異物除去術（上肢）（整形外科）
- 骨内異物除去術（下肢）（整形外科）
- 骨内異物除去術（脊椎）（整形外科）
- ウイルス性胃腸炎（小児科）
- 形成処置鎮静後（小児科）
- Rs、hMPV 肺炎（小児科）
- 気管支喘息（小児科）
- ERCP/EST（当日入院）（外科・呼吸器外科）
- 重症急性膵炎（外科・呼吸器外科）
- 直腸低位前方切除（前処置あり）（外科・呼吸器外科）
- 小腸切除術（外科・呼吸器外科）

【2021 年 1～3 月パス適用率】

